

## 第1学年芸術科（美術Ⅰ）学習指導案

指導者（美術領域専攻）〇〇〇〇

（指導担当教員 〇〇〇〇）

1. 日時 平成〇年9月5日（木曜） 第2校時(10:30～11:10)

2. 学年・組 第1学年1組 選択美術 計12名

3. 場所 美術室

4. 題材名 「わたしだけの帽子」

5. 題材の目標

（関心・意欲・態度）

- ・織っていく行為を通して「織り」の手法に興味・関心を持ち、生活の中の「織り」の意義に気づく。

（発想・構想・能力）

- ・自分のイメージに合った色の組み合わせや素材を発見する。
- ・コーディネートする服と作り出す帽子とが、響き合う色や形を見つける。

（創造的・技能）

- ・自分の納得のいくまで制作を続け、完成させる。

（鑑賞の能力）

- ・織りで作った帽子の個性的なよさや美しさを制作過程やファッションショーなどから深く鑑賞する。

6. 題材について

### ①題材観

この題材では、織り機を使って編む・織るという活動を進めながら、自分に似合う帽子を作り上げ、最後は作品と自分の服装とを組み合わせ、ファッションショーなどを行い、作品を発表する学習内容である。色や素材の組み合わせ方で作品の表情が変わることを楽しみながら、織りによって生み出される、その素材にしか出せないフォルムを見つけ出す学習内容でもある。

帽子は「頭を守る、日射しを避ける」といった本来の機能的な役割を持ちながらも、コーディネートのアクセントづけとして使用されるなど、その役割は多様化してきている。日本と海外の国々という視点で帽子を見てみると、それぞれの地域性、文化、風土、によって歴史や形の変化の度合いも違う。このように、帽子の様子や用途の変化、世界の国々での扱われ方などが扱われる。

この題材は、授業時間で自分が満足する帽子を制作することとなり、それを制作するのは簡単には聞こえるが、どこまでも突き詰められるので終わることがない。したがって限られた時間で、自分の気持ちと格闘し、どのように自分の感じ方や思いを作品に組み込んでいくかが大切となり、逆に、これが自分の内面を理解することにもつながる題材といえる。

### ②生徒観

この授業は「選択授業」であるので、選択した多くの生徒は美術を積極的に選んでいると考えられ、比較的、美術に興味の高い者や、美術が好きなのが大半を占めている。これらの生徒は中学校3年間で積極的に幅広く美術を学んできており、有る程度の基礎は身に付いているため、高

等学校に入るとさらに一層個性化を強め、芸術表現への欲求が高まってくる。したがって、こうした生徒は、集中する力や個々の願いを実現する力量、また、それぞれに感性を働かせようとする傾向も高まるので、自己の意図に応じた表現方法を見つけていくことも可能となってくる。そして、生徒たちは、中学校で培われた基礎的な力を一層発揮して自己の作品を深めていくことや、中学校で学習しなかったような表現方法への挑戦すること、またより独創的な技術の習得から表現を飛躍させていくこと、粘り強い芸術表現の追求から「本当の自己」「新しい自己」に出会っていくことなど、自己芸術世界の深い追求を望むと考えられる。

生徒にとって、8月という時期は学校にもクラスにも慣れ、生徒一人ひとりがどのような人物か、お互いをよく知り得た頃である。生徒間も仲良く和気藹々としており、授業に対する集中力が高く、この雰囲気は完成までやり遂げることのできる持続性がある。

美術の能力としては、細かい表現にも対応でき、高度な技法に対してもチャレンジ精神に飛んでいる生徒が多い。そのため、さらに本題材を学習することにより、独創的な独自の手法や応用を生み出せる生徒が多いと考えられる。

### ③指導観

この授業は、帽子を作り上げたものを、最終的にファッションショーという全身コーディネートした形で作品発表をさせるものである。こうした学習は、生徒があまり経験することの少ないものであるため、導入時に全体の流れを明確にし、さらに的確な資料を提示するようにして、生徒が作品制作に試行錯誤できる時間を多くとれるような指導を心がける必要がある。

指導過程では、まず用意した素材や織り機を生徒に見せながら、自分が帽子をかぶるときはどのような場合か、どんな時にかぶりたいか、どんな服装と合わせたいのかなど、具体的なイメージを掴みやすい内容を板書することが大切である。生徒には、机上のプランだけでは不十分であるため、自分のかぶりたい帽子の形を大まかにアイデアスケッチとして描かせる。それとともに、ファッション雑誌などの作品発表風景をみせ、授業の発表はどのようなようになるのかを把握させる。実際、プロのデザイナーの作品発表のような舞台設営は難しいが、質の高いものを見せることにより向上心も高まるであろう。また、生徒一人ひとりに自分の作品を他の生徒に見せることを意識させることで、生徒が作品を意欲的に制作するように導くことが大切となる。生徒にとって自分が着衣して、その目の前で他の生徒に発表するという緊張感は通常の鑑賞会よりも強いかもしれないが、生徒自身の好きな曲をBGMとして流すなどをして発表会の雰囲気を柔らかくする心がけも大切と考える。

なお、発表時は帽子と自分の服装とをコーディネートするのに、男女とも着替えなければならないため、女子生徒には授業が始まる前に着替えさせたり、制服の上から簡単に羽織れるようにさせたりするなどの配慮が必要である。

生徒の作品制作活動時にはできる限り机間指導を行い、生徒たちそれぞれがどのようなイメージで制作しようとしているのかを把握することが必要である。なかなかアイデアが浮かばない生徒には「普段帽子をかぶるときはどんな時か」や「他の人はどんな帽子をかぶっているか」など、実際の経験から、色や形を参考とさせたり、「自分は何色が好きか」、「どんな動物が好きか」などの発想の起点を探らせながら、具体的な作品づくりの一端を見つけ出させていくようにしたい。また、アイデアは浮かぶが、形に起こしにくいものを製作しようとしている生徒に対しては、手元にある織り機で製作ができるかを十分に検討してもらってから制作に取りかかってもらうよう

にする。織り機の形から逸脱したものを作りたい場合は、織り終えた後、最後に曲げやすい針金を通して形作らせていけばよい。ひとつのアイデアしかでない生徒や一つのアイデアで納得している生徒には、どんなテーマ性をもってこの形、この色にしたのかを説明してもらい、言語化することから、自分のイメージをより固めさせたり、あるいは別のアイデアを浮かばせたりするようにしたい。女子生徒の場合、帽子自体が女性対象としたものが多く、身近なところに多種多様な帽子があり、想像しやすいが、男子生徒の場合、参考となるものが少ないため、資料を多く取りそろえておくことが必要と考える。

生徒の意見を聞く際には、生徒の行いたいことを否定するのではなく、生徒それぞれのイメージにできるだけ近づけることができるように、個々に合った支援をしていこうと考える。

## 7. 指導計画（全4時間）

第一次 導入 …… 1時間（本時 1 / 1）

- ・帽子の種類や各国での用途の違いを知る。
- ・織り目の効果について知る。
- ・素材や資料を参考にしたアイデアスケッチをする。

第二次 展開 …… 2時間

- ・織り機の製作する。
- ・自分の形にしたいイメージを強く意識し、隣同士になる色や素材が互いに引き立つように様々な素材で製作する。

第三次 まとめ …… 1時間

- ・ファッションショー（作品と自分の服装を組み合わせ）を行う。

## 8. 本時の学習

### ①本時の目標

- ・自分だけの帽子とは何か、自分なりの解釈ができる。
- ・自分にとって魅力的だと思える形、魅力的だと思える素材の組み合わせを見つけ出す。
- ・素材に触れることで、質感や重量感などを確かめる。

### ②本時について

本時では、生徒は、「自分だけのもの」を意識して、素材とふれあっていく。自分の気持ちの良い色、形は突き詰めれば突き詰めるだけ、鑑賞者にも伝わる何かが増えてくる。自分に妥協せず素材と色とに試行錯誤を繰り返しながら、作品作りに楽しんで取り組んで欲しい。

全体的な流れとして、生徒が的確な資料をもとにして作品制作に取り組み、そしてその過程で試行錯誤をする時間をできる限り多く取っていきたい。本時では、用意した素材や織り機を生徒に見せながら、自分が帽子をかぶるときはどのような場合か、どんなときにかぶりたいか、どんな服装と合わせたいかなど、具体的にイメージを掴める内容を板書し、自分のかぶりたい帽子の形を試行錯誤を通してスケッチブックに描かせようとする。

### ③本時の展開

区分	学習活動と内容 (予想される生徒の反応)	指導上の留意点・支援・評価 (教師の活動)	準備物・資料 等
導入	・挨拶をする。	・挨拶をする。	

1. 帽子について考える。

・どんな時、どんな理由で帽子をかぶったのか思い出し発言する。

「小学校の頃、登下校帽子をかぶってました。安全のためだと思います。」

「夏泳ぎに行ったときにかぶりました。直射日光を避けるためです。」

「冬のスキー教室で毛糸の帽子をかぶりました。防寒のためです。」

・帽子にはいろいろな使用目的があり、世界各国でいろいろな特徴があることを知る。

・帽子が惹きつける魅力を考える。

2. 課題『自分だけの帽子を作る』を知る。

課題『自分だけの帽子を作る』を知る。

・この学習のテーマが『自分だけの帽子』で、自分だけが似合う帽子作りに取り組み、最後はファッションショーのようにコーディネートすることを知る。

・出欠確認をする。

○「街を歩いていると、様々な帽子をかぶっている人に出会います。皆さんはどんな時にどんな理由で帽子をかぶりますか？」

・生徒の発言を板書する。

・あまり帽子をかぶらない生徒や、かぶるのが好きでない生徒からも発言を引き出します。

○「皆さんの意見を聞くと、様々な用途で使われていることがわかります。私も今年の夏は日射しを避けるために、帽子をかぶっていました。」

○「帽子にはいろいろな使用目的があります。」

・使用目的の説明をする。

○「諸外国では、それぞれ特徴があります。」

・諸外国での帽子の特徴の説明をする。

○（参考作品をかぶりながら）「この帽子のように、これ自体で主張が強いものや、来ている服と調子のとれた帽子もあるでしょう。色の組み合わせできれいだなと感じたり、全体の雰囲気できれいだなと感じたりしませんか。いったい何が私たちを惹きつけるのでしょうか。」

参考作品

○「今回はそんなことを考えながら、帽子を製作してもらいます。テーマは『自分だけの帽子』です。自分だけが似合う帽子を作ってもらい、最後はファッションショーのように自分の服とコーディネートしていきたいと思います。」

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように帽子を作るかを知る。 「いろいろな材料が面白い。」 「色が混じってきれい。」 「こんなものできますか？」 「変わった材料だと、見たことのない感じもだせるんだなあ。」</li> <li>・本時の学習内容の説明を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考資料をみせる。</li> </ul> <p>○「どんなものを使って作っていくかという と、このような段ボールを土台として、さまざま素材、例えば…です。毛糸や、ビニール紐などを織り込んでいきます。みなさん何か思ったことはありますか？」</p> <p>○「この時間は、まず『自分だけの帽子』ですから、自分がいつ、どんなときに、どんな場所で、どんな服を着てかぶりたいか等、自分の魅力をより引き出せる場面を考えてください。そして浮かんできたいくつもの場面をスケッチブックで描きながら、本当にかぶりたいものを見つけてください。」</p> <p>○「鉛筆で描き表していくより、色鉛筆や色ペンで描いていくのもいいかもしれせん。教卓に、用意した素材と色鉛筆や参考の本などをおいておきますので自由に使ってください。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に似合う色、形などを意識させる。</li> <li>・帽子の高さの注意点を知らせる。</li> <li>・段ボールの大きさにまとまるように注意する。</li> <li>・変形は針金を使って可能であることを知らせる。</li> </ul> <p>■自分だけの帽子とは何か、自分なりの解釈ができたか。</p>	<p>参考資料</p> <p>毛糸，ビニール紐，チューブなど</p> <p>素材 色鉛筆 色ペン 参考本</p>
<p>展開 25分</p>	<p>3. アイデアスケッチをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>アイデアスケッチをしよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・素材に触れながら、スケッチブックにアイデアをまとめていく。</li> </ul>	<p>○「各自スケッチブックに、アイデアスケッチをしてみてください。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導をしながら、生徒の質問、相談に答える。</li> <li>・アイデアが浮かばない生徒などには、実際の経験から色や形を参考としたり、自分は何色が好きか、どんな動物が好きかなど</li> </ul>	

		<p>から、具体的な作品作りのヒントを見つけ出していくように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアが浮かぶが、一つに絞れない生徒には、織り機と同じ素材でテストピースを作ってもらい、実際に編ませる。</li> <li>・アイデアは浮かぶが、形におこしにくいものを制作しようとしている生徒には、参考の土台をもとに、織り機で制作ができるかを十分に検討させる。</li> </ul> <p>■素材に触れることで、質感や重量感などを確かめる。</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>4. まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>自分だけの帽子がどのようなものかの考えをまとめよう。</p> </div> <p>「造花をつけたくまりました。」 「ピンクを多めに取り入れたいです。」</p> <p>・次時の内容を聞く。</p>	<p>○「どのような帽子にしたいくなりましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えた帽子の雰囲気を探る。</li> </ul> <p>■自分の魅力的だと思える形、魅力的だと思える素材の組み合わせを見つけ出せたか。</p> <p>○次時の内容を伝える。</p>

④評価(の観点と方法)

- ・自分だけの帽子とは何か、自分なりの解釈ができたか。
- ・自分の魅力的だと思える形、魅力的だと思える素材の組み合わせを見つけ出せたか。
- ・素材に触れることで、質感や重量感などを確かめることができたか。

⑤板書計画

私だけの帽子

・ どんない時？          どんない服で？          どんないイメージ？

⑥準備物

生徒：スケッチブック

教師：段ボール、毛糸、端切れ、リボン、チューブ、モール、紙紐、ビニール紐、広告、造花、輪ゴム、タコ糸、針金、てぐす、色鉛筆、参考作品